

2021年4月11日（日）

主 題：「慈愛は生命にまさる」

—祝福の生涯—

テキスト：詩篇63篇1～8節

**はじめに**

・今日の聖書箇所は、北浜チャーチ2021年度の年間聖句です。

1) 一般的に、私たちの社会では「生命にまさるものは無い」と言われます。

確かにそうであります。生命に代わるものはありません。自然災害が多い日本では、生命の尊さをだれもが知っています。確かに、人命ほど大切なものは無いと言っても、決して過言ではありません。

・生命はそれほど大切です。なぜなら、生命は一度しか与えられていないからです。その一度しかない生涯で、生きるために大切なことは人間関係です。

・人間関係で最小のものは、「あなたと私の関係」です。

「あなたと私の関係」で、最も美しい関係は、「恋人関係」（夫婦関係）ではないでしょうか。互いに愛し合うという「あなたと私」の関係です。お互いに理解し、愛し合う関係であればまったく問題はありません。

・しかし、恋人との関係も破綻することがあります。

なぜ、でしょうか？

① 人は互いに完全ではないから

② 人は相手に完全を求めるから

③ 人はゆずる心に欠けるから

2) 「あなたと私の関係」とは、神を信じるキリスト者にとっては、「神と私の関係」です。1節でダビデは、「神よ あなたは私の神」（63:1）と歌いました。神は関係を破られる方ではありません。なぜなら神は「契約の神」であるからです。神との関係は、決して破られません。ダビデは自分の生涯における神との関係を、この詩篇63篇1～8節で歌いました。それは愛する恋人との関係のようでした。

・しかし、ダビデの生涯はいつもルンルンで、甘い蜜のような関係だけではありませんでした。いえ、敵に命を狙われるほどの試練もありました。では、ダビデはそのような苦難の中で、「神と私の関係」をどのように保つことができたのでしょうか。結論から言えば、**ダビデは自分が置かれた最悪の関係が、最善の関係を引き出すことに成功した人です。**そこに私たちは信仰の奥義を見ることができます。ダビデは「御翼の陰で 私は喜び歌います。」（63:7），と歌いました。

・詩篇63篇は、ダビデが「神と私の関係」を歌い上げた美しい詩です。

2021年度、私たちの目前には何があるか全く不明です。しかし、「あなた（神）と私の関係」が、最善の状態に置かれるならば心配や恐れることは不要です。

・そこで私たちは、今年もその幸いな関係を持ち続けるために、今年度の年間聖句である詩篇63篇から学びたいと思います。

## 大切なポイント

### 1. 神こそわが願い

#### 1) イスラエルの神

・先ず確認しなければならない点は、ダビデにとっての「神（あなた）と私の関係」です。この詩はダビデがユダの荒野にいた時のものです。彼は、アブサロムの反乱を逃れて荒野に下りました。またサウロの迫害を逃れて荒野に下りました。そのどちらも命が狙われる危険がありました。ダビデは反乱や迫害から逃れて、荒野で助けを求めたのでした。

・ユダの荒野は無毛の地で、草木が生育するような地ではありません。本当に何も無い地です。ダビデは、その地へ逃れました。しかし、そこで彼は手さぐりで、助けを求めたのではありませんでした。

・いいえ、彼にはしっかりした「神と私の関係」でした。では、彼の神とはどのような方でしょうか。る信仰がありま

#### ・創世記 17 章

17:8 わたしは、あなたの寄留の地、カナン<sup>1</sup>の全土を、あなたとあなたの後の子孫に永遠の所有として与える。わたしは彼らの神となる。

#### 出エジプト 6 章

6:7 わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、【主】であり、あなたがたをエジプトでの苦役から導き出す者であることを知る。

・ダビデは苦難の中でイスラエルを救われた生ける神に向かい、1 節で「神よ あなたは私の神」(63:1) と歌いました。

・私たちがいかがでしょうか。試練の渦中におかれると、神を遠く感じることはないでしょうか。私たちが変わりやすいものですが、神は不変なお方です。苦しい試練の戦いの中にあっても、まったく変わる事のない永遠の神がおられるとは、なんという幸いなことでしょうか。

・ダビデはユダの荒野に逃れたとき、そこは「水のない、衰え果てた乾いた地」(63:1) と歌いました。彼が置かれた状況がどんなに厳しいものであったか、伺い知ることができます。そして「私のたましは、あなたに渇き、私の身もあなたをあえぎ求めます。」(63:1) と、自分の心情を素直に言い表しました。

・さらにダビデは、「私は あなたの力と栄光を見るために こうして聖所であなたを仰ぎ見えています。」(63:2) と歌いました。彼はシオンの丘にある立派な神殿で神を礼拝していました。しかし今は、ユダの荒野で身を置いていました。ダビデにとって神を礼拝する場は、シオンであろうと荒野であろうと同じでした。神はシオンでの聖所に、閉じ込められている方ではないからです。

・皆さん、イスラエルの神、私たちが信じる神は、シオンの聖所はもちろん、「水のない、衰え果てた乾いた地」(63:1) にも、同じように臨在されるお方です。なんという幸いでしょう。

#### 『例 話』

・皆さんもご存じのように、ユダの荒野で「死海写本」が発見されたのは 1945 年でした。ところが今年 3 月 16



を、あなたとあ



本」が発見され日、イスラエル

考古学局が、65年ぶりに新たな死海写本を発見したと発表しました。

- ・発見されたのは、約1900年前のバルコフバ戦争時代のいわゆる避難民の洞窟からの写本で、ゼカリヤ書、ナホム書の一部にあたる80枚の断片でした。  
これらの紙片をデジタル技術によって聖書箇所が復元されました。それらはギリシャ語で書かれていましたが、神の名前だけは、ヘブル語でした。

- ・これは現代の奇跡です。なにしろ1900年以上もの間、沈黙していた聖書写本の一部が発見されたのです。その期間中、世界中の考古学者がユダの荒野に関心と注目を寄せて調査していました。しかし今日まで1900年間も発見されませんでした。眠っていた聖書の写本が発見されたこと、それこそ奇跡ではないでしょうか。それによって、聖書の信ぴょう性を示されました。

マタイの福音章24章

24:35 天地は消え去

ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ること

が

ありません。

- ・私たちは先月の聖書写本の一部の発見で、神のみことばは消え去ることがないことを確認しました。

## 2) 「神と私の関係」

- ・ところで、このダビデの詩で覚えない「神と私の関係」の特徴は、彼が神の臨在に出会ったことです。
- ・ダビデはユダの荒野という聖所で、臨在された神に出会いました。  
そこは、言葉、心情、行動では言い表せない神の臨在にふれる所となりました。ダビデは主の臨在に触れたとき、「あなたの恵みは いのちにまさるゆえ 私の唇はあなたを賛美します。」(63:3)と歌いました。
- ・皆さん！ 私たちのたましいが、躍動するのは、神の恵み(慈愛)に触れたときです。そのとき人は神に感謝し、神を讃えて歓呼します。それとは逆に、神との関わりが断たれたとき、人は死んだような世界に閉じ込められます。
- ・ダビデにとっては「神と私の関係」を通して、神の臨在に出会いました。これは神を信じる聖徒たちにとって、励ましです。「神と私の関係」は、シオンの聖所だけではありません。いいえ、苦難の下にあったユダの荒野でした。なんと神のご計画でしょうか。

### ① それでは、神の臨在はどうして分かるのでしょうか。

それは何か特別な靈感に満たされたり、超自然的現象が起こったり、異変が起こったりすることを意味しません。そういう場合もあるでしょう。しかし、置かれた状況は同じで変化がなくても、また他人には分からなくても、本人には神の臨在は分かります。

- ・ {例 話} マルコ9章25-34

ある時、12年間も長血を患っていた女性がいました。彼女は多くの医者にかかりましたが、ひどい目にあわされ、持っているものをすべてを使い果たし良くなりたいたい一心でした。しかし病状は悪くなる一方でした。その時の様子を、聖書は次のように記録しています。

- ・ 5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。  
5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

- 5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。
- 5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」
- 5:31 すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」
- 5:33 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

- ・イエスは女性が衣にふれたことが分かり、自分の内から力が出ていったことを感じました。女性も血の源が乾いて、病気が癒やされたことを感じました。他の人々には、そのことは分かりませんでした。長血を患った女性は、神の御子であるイエスとパーソナルな出会いを経験しました。それこそ神のご臨在にふれたのでした。神の臨在とは、そのようではないかと思えます。

②では、ダビデはどのようにして神の臨在に触れたのでしょうか。

ヒントは63篇2節に見ることができます。

63:2 私は あなたの力と栄光を見るために こうして聖所であなたを仰ぎ見えています。わずか1節ですが、ここにダビデの信仰姿勢を覗くことができます。①彼は神の力と栄光を見るために（目的）、②聖所で神を仰ぎ見えていました（信仰姿勢）。

- ・彼はこのように「**神と私の関係**」を持っていました。そこに神の臨在がありました。この①と②は、今私たちがいう「**ディボーション**」でしょう。聖所で神を仰ぎ見て、神の力と栄光を見ることです。それは私たちの目的であり、信仰姿勢でもあります。
- ・2021年、私たちが神を礼拝する聖所は、まずは北浜チャーチの礼拝堂でしょう。しかしダビデがユダの荒野に置かれたように、時として私たちも、苦難の道を通り、荒野のような不毛の地に置かれるかもしれません。しかしそれが問題ではありません。私たちはどこにあっても「**神と私の関係**」を持つことは可能です。神の臨在にふれることは可能です。それには、どうしても心静め、神を仰ぎ見ることが大切です。
- ・ユダの荒野で生ける神に出会ったダビデの賛美は、さらに続きます。

## 2. 神こそわが喜び

### 1) 神を喜ぶ

63:5 脂肪と髓をふるまわれたかのように私のたましいは満ち足りています  
喜びにあふれた唇で私の口はあなたを賛美します。

63:6 床の上であなたを思い起こすとき夜もすがらあなたのことを思い巡らすときに。

- ・ダビデはこのように、神への賛美、喜びを歌いました。それは1節の「**水のない、衰え果てた乾いた地**」と対照をなしていることがわかります。「**脂肪と髓**」とは最上の産物、豊かさの象徴を指しています。現代の私たちは脂肪を敬遠することが多いかと思えますが、じつは最高の産物です。

{例 話}

- ・極寒シベリアの地は、寒い時には氷点下50度から60度以上にも下がります。そこで20年以上も生活された方から、私は聞いたことがあります。寒さが極限に達したとき、体が動かなくなり力も出なくなったそうです。その時、最高の贈り物とは「油の塊」(ラード：豚脂)で、一番のご馳走であったそうです。きびしい環境下で脂肪は力と喜びを与えてくれた、と聞きました。
- ・ダビデは、自分のたましいから神を喜び賛美しました。

63:5 脂肪と髓をふるまわれたかのように私のたましいは満ち足りています  
喜びにあふれた唇で私の口はあなたを賛美します。

- ・ダビデはユダの荒野で、「神と私の関係」を学び、それを賛美し表現しました。彼は最悪の状態から最善の状態へシフトすることを学びました。ここに苦難を乗り越える鍵があります。彼がとくに知識を学んだわけではありませんでした。いいえ、秘訣は次にありました。

63:2 私はあなたの力と栄光を見るためにこうして聖所であなたを仰ぎ見えています。

- ・まことの満足を経験しました。内面は外面を強め、外面は内面を強めました。ここに信仰者の幸いと祝福があります。
- ・ここに、彼のダビデの信仰と忍耐を見ることができます。彼が苦難から喜びを経験した背景に、「あなたの力と栄光を見るために」(期待)という信仰姿勢がありました。さらに彼の賛美は続きました。

## 2) 神を賛美する

63:7 まことにあなたは私の助けでした。御翼の陰で私は喜び歌います。

63:8 私のたましいはあなたにすがりあなたの右の手は私を支えてくださいます。

- ・御翼の陰で、ダビデは神の奥義を学びました。そして神を喜び歌いました。神の愛は、めんどりがひなを翼の下に集め守ることに似ています。イエスはルカ福音書13章で次のように言われました。

13:34 エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。  
わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。

- ・イエスはエルサレムが崩壊する前、ユダヤ人に対する神の愛を述べられた箇所です。神の愛は、めんどりがひなを翼の下で守られるようです。ダビデは神の愛の守りである御翼の陰に身を置き、喜び賛美を捧げました。ダビデはこのように守られて歩みました。

- ・皆さん。私たち神を信じる者たちは、神の翼の陰にいる者ではありませんか。

そこには、確かな守りがあるのです。イザヤは次のように述べました。

40:31 しかし、【主】を待ち望む者は新しく力を得、驚のように、翼を広げて上ることができる。  
走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

- ① 幸いなことは、私たちは神の翼の陰にいる者として守られている者であることです。そして、イザヤが述べたように、

- ② 力強く生きる者です。

それが「神と私との関係」にあるクリスチャンの姿です。

ま と め
-------

主 題：「慈愛は生命にまさる」

—祝福の生涯—

- ・ダビデは冒頭で、「神よ。あなたは私の神」(63:1) と歌いました。  
それは「神と私の関係」でした。その関係とは愛し合う恋人同士の関係のようでした。
- ・今年も私たちは、神との幸いな関係を持ちたいと願います。なぜなら「神と私の関係」こそ、祝福の生涯を過ごす鍵であるからです。神との関係には慰め、力、励まし、喜び、賛美があります。
- ・では、私たちはどうすれば良いでしょうか。

1. 神の聖所（臨在）に自分を置く

63:2 私はあなたの力と栄光を見るためにこうして聖所であなたを仰ぎ見えています。

2. 御翼の陰に自分を置く

63:7 まことにあなたは私の助けでした。御翼の陰で私は喜び歌います。

63:8 私のたましいはあなたにすがりあなたの右の手は私を支えてくださいます。

\*神は、めんどりがひなを翼に下に置いて守るように、聖徒をお守りくださいます。それは神の慈愛（恵み）です。聖徒には喜びがあり、神も喜ばれます。それが「神と私の関係」です。

\* God bless you !